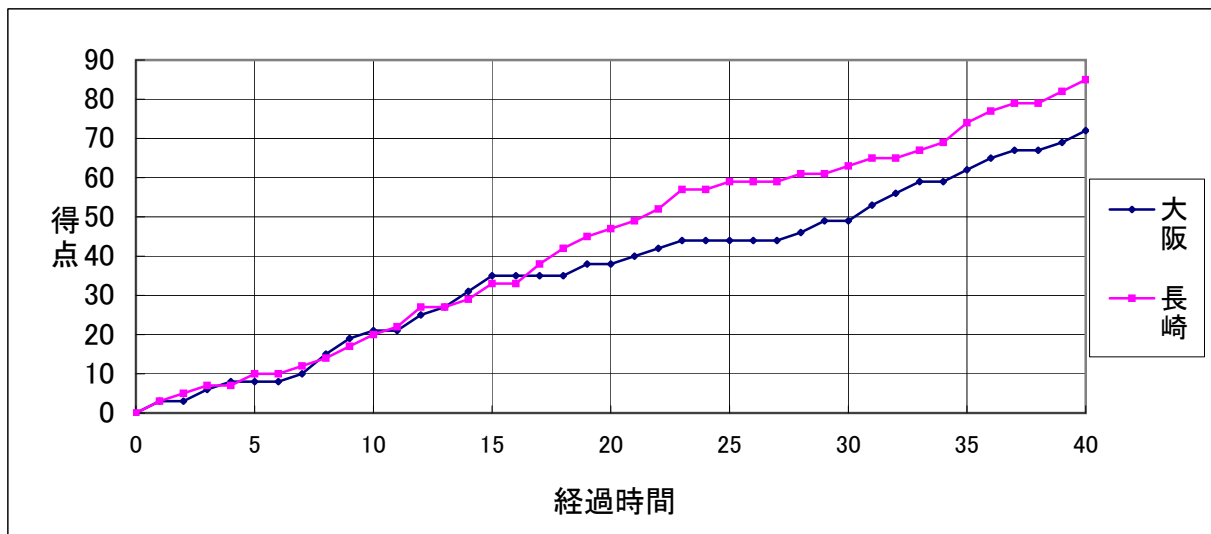


大会名	チャレンジ！おおいた国体 第63回国民体育大会 バスケットボール競技会	F4	15:45	成年女子 準々決勝															
		大阪 72 ●	<table border="1"> <tr><td>21</td><td>—</td><td>20</td></tr> <tr><td>17</td><td>—</td><td>27</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>23</td><td>—</td><td>22</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	21	—	20	17	—	27	11	—	16	23	—	22	—	—	—	85 長崎 ○
				21	—	20													
17	—	27																	
11	—	16																	
23	—	22																	
—	—	—																	
期日	2008年（平成20年）9月29日（月）																		
会場	かんぼの郷宇佐体育館																		

主審 宇地原尚彦

副審 廣田嗣昭



## 大阪

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F
4	山本由佳	3	1	0	0	1
5	宗近尚子	0	0	0	0	0
6	川端淳子	0	0	0	0	0
7	足立加奈子	2	0	1	0	4
8	田村真理子	0	0	0	0	1
9	畑岸邦枝	2	0	1	0	2
◎10	村田麻美	9	0	1	7	1
○11	佐藤朱華	11	1	4	0	5
○12	梅澤裕貴	15	1	5	2	3
○13	玉井里英	25	7	2	0	0
○14	田貫紗佳	5	1	1	0	3
15	瀬戸あゆみ	0	0	0	0	1
16						
17						
18						
コーチ	田尻 肇	/	/	/	/	/
合計		72	11	15	9	

## 長崎

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F
◎4	森崎絵梨	18	6	0	0	3
○5	永田睦子	27	1	10	4	0
○6	野田仁美	0	0	0	0	2
7	出岐 奏	0	0	0	0	0
8	鷲尾真優美	3	1	0	0	1
○9	大倉悦子	10	0	4	2	1
10	川上聖子	0	0	0	0	0
11	宮崎美由紀	0	0	0	0	0
12	下田弥生	5	0	2	1	0
13	大野慎子	1	0	0	1	1
14	野口てるみ	0	0	0	0	0
○15	花田有衣	21	0	7	7	1
16						
17						
18						
コーチ	太田 京子	/	/	/	/	/
合計		85	8	23	15	

○はスターター(◎はキャプテン) 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

## 戦評

第1Q、大阪は3-2ゾーン、長崎はハーフマンツールの守りでスタート。#13が立て続けに3Pを決めるなど、アウトサイドから攻める大阪に対し、#5の起点に攻める長崎。長崎は#5の1on1で得点する。残り33秒、大阪#10のフリースローで21-18と大阪が一時リードしたが、すぐに長崎もゴールを決め21-20の一点差で1Q終了。第2Q、長崎#15が連続して得点するも、大阪も#13の3P、#10のゴール下で応戦。大阪はミスマッチをついて、1on1を仕掛ける。残り3分、長崎のマッチアップゾーンが効果を表し、長崎47-38大阪で前半終了。第3Q、両チームともゾーンをしく。ともにアウトサイドシュートで勝負するが、ディフェンスリバウンドに勝る長崎が残り5分で59-44とリード。タイムアウト後、大阪はマンツーマンディフェンスに切り替える。大阪#4が3Pを沈めるものの、長崎も#15の1on1で得点していく。そのまま63-49と長崎のリードは変わらない。第4Q、追いつきたい大阪は#14のミドルショット、#13の3Pで残り7分67-59と8点差まで詰め寄る。長崎は#4、#5のプレイで突き放しにかかる。残り3分、大阪はオールコートマンツールを仕掛けるが、長崎のペースを崩せず85-72で長崎が準決勝に進出した。

記載者	芳川 雅裕 (所属) 大分県バスケットボール協会
-----	--------------------------